

どっかい生きてます!



潮騒JTCでは今年も、初夏の筑波山へのハイキング登山を挙行了しました。筑波山は気軽に登れる山として人気です。でも、頂上近くには険しい登山道が待ち受け、巨岩も多く決して侮れません。でも、頂上まで登り切った時の爽快感や達成感は格別です。写真は筑波観光鉄道ロープウェイの女体山駅で、登山の記念に仲間が集まって撮ったものです。

2015

6

悩みながらも 仲間を信じて前に進みます



梅雨の鬱陶しい日々が続きます。皆様お変わりありませんか。さて、本号では潮騒 JTC の現状を知っていただくために、少し愚痴めいた話を記します。

まずは胸突き八丁にある施設運営についてです。前年度に就労支援に関する潮騒食堂と野菜直売所の開設、規模拡大に対応した農業機械の導入、シェアハウスや高齢依存症者の介護施設整備などによる経費負担が重くのしかかっています。もとより収益構造を持たない NPO 法人ですので、潮騒は経済基盤がとて脆弱です。まだまだ地域の支援ネットワークが弱く、善意の献金にも頼れません。その一方で、今後に向けて入寮者の多様化や高齢化、自立と就労支援の事業展開は不可欠です。そのため潮騒の持つ基礎体力と収支バランスに配慮しながら、今は苦しくても頑張るって特長ある施設づくりを進めなければなりません。

次に入寮者の長期滞留化傾向と、逆に施設に定着できない人たちの増加というジレンマも深刻です。私は、何らかの形で潮騒に“救い”を求める仲間を無視できません。このため潮騒へのアクセスは増える一方で、私の中にも年齢から来る焦りもあり、先手を打って依存症者の多様な受け皿づくりに力を入れています。その結果、依存症かどうか判別しにくいグレーゾーンの人たちが増える、皮肉な現実突き当たっています。しかし、潮騒は何でも受け入れる生活困窮者の収容施設ではありません。依存症の回復と生活自立、農業を中心とする就労支援を柱にした回復施設です。回復の歩みで「先を行く仲間」が「後から来る仲間」をケアするという、あくまで対等な立場による当事者活動が大原則です。仲間同士が支え合うとてもシンプルなスタイルで、依存症者がお互いを鏡にして自分の問題に向き合い、依存症に振り回された人生を相対化させる謙虚な生き方をどうしたら体得できるか？を日々実践している居場所です。

しかし、このシンプルな回復活動を施設内で保障し、支えることが最近とても危うくなっています。大所帯という潮騒独自の事情はあるにせよ、日々生起する様々なトラブルに問題の根深さを実感させられています。例えば施設に蔓延しつつある規範意識の低さや道徳観の欠如、怠惰な雰囲気です。依存症に付随する各種の“探索行動”とは異なる、コンビニでの安易な万引きやその繰り返し、施設内での約束事や決まり事が守られない事態、すぐキレて安易に暴力に訴える悪しき傾向…、総じて回復につながる感動や希望、魂に響く言葉が施設内で無力化している危機感を抱きます。どうやら依存症以前に、人としての前提が“壊れ掛かった”人たちが潮騒にも登場しているようです。これらの傾向は、不気味で息苦しい社会の現実を鋭く反映しているように思います。しかし、縁あって潮騒の門を叩いた人は、私にとっては基本的に回復を目指す同じ仲間です。悩みながらも仲間を信じて前に進みます。

(センター長 栗原 豊)

カスミ「わたしの企画」応援します! に選ばれる 11月8日に依存症フォーラム実施



▲第23回「私の企画」応援します! 企画採択発表会で施設の活動や企画内容について話す栗原豊センター長

約100店舗を展開する県内スーパーの最大手、カスミグループ(本社・つくば市西大橋)が主催する第23回「わたしの企画」応援します! に、潮騒ジョブトレーニングセンターが選ばれました。審査により応募企画33件の中から7団体の企画が採択され、潮騒JTCが提出した企画「世間は僕らを誤解している～当事者の語りと太鼓で綴る依存症フォーラム」が含まれました。県内の依存症リハビリ施設としては初めての荣誉です。11月8日に採択された7団体が一堂に会し、グループ本社ビルのカスミつくばセンターで、それぞれのイベントを実施します。潮騒JTCでは翌週に10周年記念フォーラムを控えています。世界につくば市において意義ある企画イベントを実現したいと考えます。

6月1日に同センターで行われた採択企画の発表会では、生井義雄取締役(カスミ人事総務本部マネジャー)から各企画の立案者に花束と採択書が贈呈され、栗原センター長も緊張した面持ちで受け取りました。審査員からは「訪れた人が楽しんでくれるイベントを作ってほしい」と期待が寄せられ、企画者のあいさつで栗原センター長は農業に特化した潮騒の就労支援活動を強調し、「私たちに対する世間の目は厳しいが、このチャンスを生かして当事者によるメッセージと琉球太鼓の演舞によって依存症者の回復を広く市民にアピールしたい」と抱負を述べました。今後4回の打合せを経てイベント本番に臨みます。



▲生井義雄取締役(カスミ人事総務本部マネジャー)(右)から採択書を受けた



▲今回企画が選ばれた7団体・個人の関係者が一堂に会して記念写真に



今年も仲間たちが 筑波山登山に挑戦!



今年も潮騒JTCは5月28日に筑波山へのハイキング登山を実施しました。前年よりも参加者は少なかったですが、若い世代の仲間たちを中心に参加メンバーは途中何度か休息しながらも女体山頂まで登り切りました。何人か途中下山組もいましたが、自分の体は正直ですからその選択もありだと思えます。

ともすると依存症者には面倒な事を避け、体力を使う事を苦手とする傾向が伺えますが、自分の足で筑波山を登り切ったことは貴重な体験です。この日は体調が悪く

登れなかったり、ロープウェイに頼らざるを得なかった仲間たちも頂上駅で合流し、みんなで“かまど弁当”をおいしく食べました。標高は低いとはいえ大人数での筑波山ハイキング登山は課題も残し、交通問題などを考えると今後は実施日を分けて小グループで取り組むことになりそうです。今回も、つつじヶ丘から弁慶茶屋跡を結ぶ比較的短いルートで、先行する登山者の頑張りに励まされながら女体山頂まで登り切りました。(み)

ツカ
感想文

やりきった感動と登り切った達成感

少し汗ばむ中、すっかり潮騒 JTC の恒例イベントとなった筑波山へのハイキング登山がスタート。「やっぱりきついな」「今回は登り切れるだろうか…」と不安に駆られ、途中何度も立ち止まってしまいました。体が熱くなり、一気に汗が噴き出しました。「もうダメだ。これでギブアップかあ〜」と諦めかけながらも、足を止めませんでした。最初の難関を越えて何とか中腹にある休憩場所まで辿り着くと、そこには数人の仲間がいました。ここで長く休むと後がきついので、息を整えてから再び登り始めました。

昨年の経験があるので、ここからは自分のペースを計算しながら足を運びました。いくつもの石を乗り越え、巨岩の間を抜け、クライミングしたり、登れば登るほど体が慣れてきた感じでした。蒸し暑さとどのどの渴きに苦勞しながらも、山頂に近づくにつれ小・中学生や高校生の一団で急峻な登山道がごった返していました。渋滞にはまり、なかなか抜け出すのが大変でした。自分のペースが保てなくなりましたが、子供たちの頑張る姿や笑顔に励まされ、奮起することができました。そして、ようやくゴール！ 今年の登山は、昨年よりも登り甲斐がありました。達成感や感動を味わい、格別なものがありました。女体山頂にある神社の岩場で、眼下の眺望をながめながら記念写真に収まることができました。楽しい思い出に残る筑波山ハイキング登山でした。もっとも下山は自腹でロープウェイを使ってしまったけど…。

イチ
感想文持病の腰痛と運動不足から
途中下山した初登山

潮騒に入寮以来、初めての筑波山登山でした。これまでは体の調子が悪いから等の言い訳をして参加しませんでした。ですが、僕も入寮4年目。いくら自分が行きたくないからって嘘をついてまでプログラム放棄はしたくなかったのです。登山当日、自分が起床した時には自分が登山に行くことを忘れていたのですが、早朝から起床出来ました。毎朝遅くまで寝ている自分が、まるで嘘の様な感じでした(僕は朝凄く嬉しかったのです)。マイクロバスで筑波山の中腹まで行き、そこから順番に登山開始。僕は自己中心的にどんどん登っていきました。自分が腰のヘルニアにかかっている事、ふだん運動不足の事も忘れていました。出発してから3~4分程で足が物凄く痛み出しました。でも、他の仲間に心配させたくなかったので、我慢しながら途中まで登りました。

間もなく木のベンチがあり、それを見た僕は思わず「ここは休憩ポイントです！」などと言い、思わず座ってしまいました。ベンチに座ってみると物凄い腰痛があり、足も痛いのです。そこは標高が650m地点でした。あと少し登れば頂上だったのに、もうその時には下山する事しか考えていない自分がいました。ベンチで20分程休憩した僕はもう下山していました。下りで何度もコケそうになったのですが、仲間から誕生日プレゼントに貰ったシューズのお陰で転ばずにスタート地点まで無事に戻れました(上りでは物凄く遠く感じたのに、下りはたったの10分位でした)。

そこで仲間から昼食の弁当を貰いました。それを食べていると、僕以外も何人かは途中下山してきました。本当に筑波山は大変な山なんだなあ、と思い知りました。スタッフから処方薬を貰い、それを飲んで皆と一緒にマイクロバスで施設に帰りました。ハウスに着いてから、僕は自分からスタッフに「行かない理由がないので行きますよ」と言っていたのに、それが行ってみたら皆より先に下山してしまったことで、皆に合わせる顔がないなと思っていました。でも、仲間が僕にとっても優しくしてくれたのです。だから僕は余り後ろめたさを感じずに皆と仲良くいられました。今回の登山はこんな感じですが、来年の登山では皆と共に頂上まで登りたいと思っています。



▲途中の休憩場所で一息入れる仲間たち、さあ頂上まで頑張るぞ！



▲登頂したメンバーの中にも下山はロープウェイ利用が目立った

アオ
感想文

徐々に仲間を思う気持ち、 連帯感を味わう

快晴の下での筑波山初登山、最初のうちは軽々と登っていたが、次第に息苦しくなってきた。登るに従い、仲間が一人、また一人と途中下山して来るのにはビックリ。がしかし、1年、いや2年半ぶりの山登りではないか、久しぶりに最後までやり抜こうと奮起し、登り続けた。途中、仲間といううちに変な気分から来た。下山組とは裏腹に一人、二人と前向きに頑張る仲間の姿に励まされる…、これは何だ!

そうか、これが徐々に味わう仲間を思う気持ち、連帯感なんだ。よし!これなら行ける。いつの間にか不安が自信に変わっていくのが感じられた。正直、体はきついが、昔の感覚を取り戻していた。夢中で登っているうちに、頂上ではないか。途中、小学生や高校生、年配者と会ったが、みんな元気そのものだった。翻って自分はどうだろう?日頃、小さい事にくよくよしてばかりで何て情けないんだ。よし、この登山経験をふだんの施設生活に生かそう。前向きに回復への頂上を目指して行こうと、新たな決意が生まれた良い一日でした。

マサヤ
感想文

回復に値しない人間は 一人もいないんだ

今年で2回目となる筑波山への山登り。今年は、自分自身の中に大きな目標がありました。自分に自信をつけるという目標です。今までは自分に自信が持てず、酒に頼りっぱなしの生活を続けていました。困難にぶつかるたび、その現実から逃れるように、酔っぱらって現実から逃避し続けました。その結果、努力を忘れ、イバラの道より、バラの道を望むようになり、段々と社会人としての心を失っていたのです。

健常者から見ると、ただの登山かもしれませんが、しかし、自分達アディクトにとっては、努力というものを学ぶ機会であり、努力の先に待つものとは、どれほど素晴らしいものなのかを知るチャンスでした。今まで逃げ続けた努力や現実、また自分自身と向き合える最高のプログラムなのです。

この日、頂上に登った仲間たちの顔は、もはやアディクトではなく、健常者の人達と同じ達成感に満ちあふれていました。「俺達はアディクトで普段はDay(デイケア)にいるが、筑波山という大きな壁を超える力はある」と。仲間達の登山を終えた姿は、そんな風に社会に語りかけているような気がしました。今回のプログラムで自分は学びました。「回復に値しない人間は一人もいないんだ」という事を。

ナリ
感想文

先行く園児らの登山姿に 勇気もらった

私は最初、登山なんかどうって事ないと軽く考えていたのですが、登り始めて10分とたたないうちに、その考えがもろくも崩れ去ってしまいました。息が切れてどうしようもなく、最後まで持つのだろうかと先行き不安になってしまいました。考えてみれば最近、運動らしい運動は何一つやっていないし、どこに行くにも車だし、自分の体力の衰えに愕然とする思いです。

私はスタッフなので、他の仲間のサポートをしようと考えていたのですが、いざ登り始めると自分自身の事だけで精一杯。とてもじゃないが仲間のサポートなどできませんでした。最後まで登りきる事ができるかが不安になりました。しかし、途中で幼稚園児の集団と出会い、園児らの登山姿に勇気もらいました。小さい手、小さい足で自分の体よりも大きい岩を登って行く姿に、私も負けてはいられないと強く思いました。園児たちにももらった勇気で何とか最後まで登り切ることができました。

確かに登り切った達成感があったのですが、それよりも、またこの山を自分の足で歩いて下りるのかと思うと、情けない事に気持ちが萎えてしまいました。これは私一人の正直な感想ですが(恐らく途中下山組も同じ心情だと思います)、来年は登りたくないなと思えました。とにかく自分の体力の無さを痛感させられた一日でした。



▲「今回は思ったよりきつい」との本音が険しい顔付きからも?



▲この余裕ある表情はこれから登山?それとも下山を終えた?

平成 27 年度 NPO 総会開く

提出議案を全会一致で承認

特定非営利活動法人潮騒ジョブトレーニングセンターの平成27年度総会が5月31日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケア会議室で開かれ、前年度の事業報告や同決算、今年度の事業や予算計画がいずれも異議なく了承されました。今回は理事の改選期だったことから、新たに5人の理事が加わり、組織運営に厚みを付ける形になりました。

栗原豊理事長は冒頭あいさつで、事業費捻出に苦労している施設運営の現状に触れながらも、「世間にはアル中やヤク中に仕事は任せられないという空気が根強いが、潮騒の仲間たちを見ているとマンパワーを生かした農作業や、過去に経験のある建築・土木の周辺分野の仕事を任せられることが、新たないきがいや生きる自信となって回復につながっている」とし、世間並みの就労条件にこだわらずに「半就労・半福祉」の就労環境の整備に理解を求めました。理事からは「ファイザーの助成が終わっても、自力で潮騒農業を発展させてほしい」「刑の一部執行猶予制度に対応する受け皿作りでは、管轄する水戸保護観察所との連携を模索してはどうか」などの意見が出されました。(勝)



久々のプログラムながら何とか形に

潮騒アディクションセミナー開く

5月31日の午後、大野まちづくりセンター(鹿嶋市立大野公民館)で「潮騒アディクションセミナー」が開かれました。新しい仲間とともに地域の自助グループ(AA・GA)メッセージの意義深い2時間の時は瞬間に過ぎ去りました。橋渡し役のケイチロウさんは潮騒のNPO総会出席から遅れての参加でしたが、貴重な試みを維持してくれていることに感謝です。

この日、自分は施設の仕事とも重なり慌ただしく過ごしていましたが、セミナー会場で先方の司会者と簡単な

打ち合わせの上スタートしました。久々のプログラムだったので持ち時間が持つのかな、と思ったりして不安要素が一杯でした。けれど、必ず助けが欲しい時に仲間が現れ、何とか形になっていくから不思議です。ハイパーパワーは「ベストを尽くせ!」と言っていたのかなと、今になって思います。仲間の話では「依存症者は子供じみていいる」という指摘が印象に残りました。今自分のドタバタが経験となって、一つでも身にになればな、と思います。参加して下さった皆に感謝しつつ…。(とむとむ)

就労支援プログラムの冊子を発行

潮騒ファイザープロジェクトのまとめとして

潮騒ジョブトレーニングセンターは、このほど2012年から3年連続で取り組んだ「潮騒ファイザープロジェクト」の成果をまとめた小冊子「俺たち仕事したいんだ」(B5判、60ページ)を刊行しました。発行部数は1000部で、各地のダルクやマック、潮騒と関係のある精神科病院、保健所、保護観察所、ハローワーク、各支援団体などに配布します。希望される方には送料の負担のみでお分けしますので、ご連絡ください。

潮騒では大手製薬企業ファイザー社の助成を受け、ダルクなど依存症のリハビリ施設の課題である「出口」問題に、「薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発事業」をテーマに掲げ、全国のテストケースとなるように職業訓練と就労支援のプロジェクトに取り組みました。試行錯誤の連続ながら、地の利を得て農業に特化した多様な受け皿を整備でき、ソフト・ハードの両面から貴重な財産を形成できました。また、依存症の多様化や高齢化、生活保護頼り、ダルク施設内での滞留化などの課題に風穴を開ける意欲的な試みに繋がったと自負しています。

本冊子は、よくある報告書の体裁を取らず、読みやすいようにストーリー性を持たせました。潮騒の歴史を振り返りながら、就労支援を柱とする施設運営に至った経緯やプロジェクト選定の意義、具体的な3年間の実践の様子、今後の課題も目配りしています。栗原センター長は「3年間の取り組みで、潮騒のもつマンパワーを生かした農業を中心とする就労支援の形がまとまった。他の施設でも参考になると思う」と話しています。ファイザープログラム事務局は「3年連続で取り組んだ姿勢は評価できる。潮騒への助成金が年々増えていったことがそれを実証している」とねぎらってくれました。(三)



ジャガイモ収穫作業 私たちの農園



女性施設「るみの家」では専用の農場を確保し、年間を通じて農作物を育てる農業プログラムがあります。3月にはジャガイモを植えました。私は途中参加でしたが、みんなで土だらけになって種イモを植えていました。思ったよりも要領よく、スピーディーな仕事ぶりで、午前中で作業を終えました。私も生まれて初めてジャガイモづくりのお手伝いをしたので、収穫がとても楽しみでした。

そして収穫期の5月下旬、お弁当をもって「私たちの農園」に行くと、今回も午前中に収穫作業が終わっていました。私はお弁当を食べるだけに参加したみたいでしたが、野外で食べるお弁当は格別でした。みんな「楽しかった」と感想を話してくれました。実を言うと、私は農業が好きではありません。太っているので立ったり座ったりが大変だし、虫が嫌いだし、農業の良さがあまり分かりま

せん(心の問題ですかね?)。でも、自分たちで始めた作業には責任を持ってやろう、とみんなに話しました。私は見守ることぐらいしかできませんが…。

この日はジャガイモ畑の半分を掘り、先に植えた早生種を収穫しました。農業隊の仲間に手助けしてもらい、指導も受けました。来年はもっと自分たちで、できるだけのことをやっていきたいと思います。これからは夏野菜、秋には楽しみなサツマイモですからね。という訳で今は毎日ジャガイモを食べています。とても美味しいです。施設では女性の仲間が10人に増え、作業所もできて農作業やかまど食堂での仕事に、それぞれメンバーが忙しく生活しています。これから「潮騒通信」で女性たちのメッセージを伝えていきますので、ご支援の程よろしくお願ひします。(施設長：栗原ルミ)

レイコ 感想文

4月中旬、男性陣の力を借りながら「るみの家」に来て初めての農作業(ジャガイモの苗植え)に参加、1カ月半後には収穫期を迎えた。今回も中腰での作業は自分の体を持て余し、苦労した。でも収穫は楽しく、ジャガイモの姿を見つけるたびに一喜一憂した。自分自身とても満足した作物作り。収穫する喜びは何とも言えない大きなものだった。穫れたてのジャガイモは、仲間に調理してもらい、美味しくいただいた。ごちそうさまでした!

みのる 感想文

私はジャガイモを掘りながらも、昼の弁当を待ちわびた。そして昼食タイム、すごく楽しみに弁当を開け、みんなで美味しく頂きました。今度はぜひ苗植えから経験したいです。もちろん弁当付きでネ…。

ぎん 感想文

ケガをしていて芋掘りはできなかつたけど、るみさんと農園にお弁当を持って行った。青空の下、みんなで食べたお弁当はおいしかったです。穫れたてを持って帰り調理してくれたジャガイモも、とてもおいしかったです。

ちーな 感想文

苗植えはしなかつたけど、芋の芽が出ているのを見つけるとうれしかったです。途中草むしりがありましたが、みんな暑い中頑張りました。草がむしりしやすい様に、土おこしを農業隊の仲間がしてくれてとても助かりました。芋掘りは初めてではないけど、久しぶりに勘を取り戻して掘り易くしました。芋掘りが終わると仕分けをしました。仕分けは難しく、何回やっても分からなかつたです。芋をハウスに持って帰り、ポテトサラダにして食べました。ちょっと水っぽかつたけど、おいしく食べられてよかつたです。青空の元で食べたお弁当も、外の空気を吸いながらだったから、おいしかったです。

いるか 感想文

女性だけの畑ができて、久しぶりの農作業をしました。今回は1カ月半ぐらいでじゃがいもの収穫を迎えて、天気があまりよくない日が続きましたが、無事にジャガイモを収穫できました。ジャガイモ自体はあまり大きくなかつたけど、久しぶりの農作業で楽しかつたです。そしてジャガイモの次に、何をするのが楽しみです。みんなで一つのことに取り組むことがいいことだと思います。一つになれたように思います。

すみれ 感想文

初めて苗から畑に埋めて約1カ月半で収穫。その間、草むしりや台風の夜に雑草の様子を見に行ったり、分からない事ばかりでした。5月下旬に待ちに待ったジャガイモ掘り。日焼け止めを塗り、迷彩のヤツケを着て丁寧に土を掘り、じゃがいもが見えた時はとてもうれしかったです。寮に持って帰って、茹でて食べた。美味しかったです。

みく 感想文

みんなが美味しかったよ!と言ってくれるだけで、嬉しい気分です。穫れたてのジャガイモは皮が薄いのでタワシでこすって皮を取り、茹でて本当にシンプルに塩、コショウ、マヨネーズで和えて夕飯に出しました。センター長も「おいしかったよ!」と言ってくれたので、嬉しかったです。また季節のものが収穫できた時、みんなと美味しく食べられたらいいなと思います。

たかこ 感想文

ジャガイモ栽培は、種植えから収穫までずっとやりました。こんなに畑での農作業が大変だなんて思いませんでした。ジャガイモは植えてから収穫までそんなに手間がかからないので、もっと楽にできるものと思いましたが、草むしりや収穫のサイズ分けが大変でした。自分たちで作ったジャガイモをマヨネーズや塩で和えて食べたけど、とっても美味しかったです。私はお昼ご飯を食べ、つつい寝てしまいましたが…。今度は何の畑になるのか楽しみのような、不安なような感じです。男性陣に手を借りながら、次は何を栽培するのかな?



受刑者からの手紙

しゅんさんに私の決意だけは伝えておきたい

御手紙有難うございます。大変忙しい中、返事を書いて下さり本当に有難うございます。心から嬉しかったです。先日しゅんさん宛てに質問を書いた訳ですが、もしかしたら施設の事情などにより返事は駄目なのでは?などと一人で悩み、正直悶々とした毎日でしたので、手紙を読んだ時は心救われる思いでした。質問に対する答えも安心するものでした。しゅんさんの立ち位置からの言葉は大変に貴重なものですし、私自身心から潮騒は素晴らしい場所なんだ、と考えるに至っています。特に“今は余り悩まず”との言葉で気持ちが大大分楽になりました。“流れに身を任せる”“流される”では芳しくありませんが、少しこのスタイルで行きたいと思いました。満期までは1年6カ月ありますので…。

ただ、しゅんさんには、私の決意だけは伝えておきたいので記します。今後の人生においても中途半端だけは嫌だとの気持ちが強いのです。今後築く人間関係なども本当に大切に生きて行きたい、壊したくない、失敗したくない、と考えています。半端な気持ちや嘘をついたままお世話になったのであれば、必ずや失敗が待っているのでは、などの考えが頭をよぎるのです。自惚れかもしれませんが、自分自身必ずや小さくとも一事業で成功するという気持ちがあります。そんな夢を考えると、色々悩んでしまうのです。先ずは病気を治す気持ちも正直なものです。私が治り、そして苦しむ者たちをも救う、これも一生の事業ですし、ものすごく魅力を感じています。上手く文章をまとめられませんが、今後一つ一つの問題や想いを打ち明けられる関係を築けて行けたらいいと考えています。何卒、しゅんさんには力になって頂きたいと思います。勝手な気持ちばかりで申し訳ありません。他に相談できる者がいないのでお許しください。

私の想像なのですが、ここ最近で潮騒の規模が大きくなっているのではないのでしょうか。私が今まで知らなかった事実を通信で知っただけなのかもしれませんが、新しい事業のスタートや、自立支援での受け入れは凄いなと思います。人が増えれば様々な問題も生じて大変な事も多いのではないのでしょうか。くれぐれも体調管理には気を付けて下さい。全ては健康があつての人生だと思えますので。まだ手元には届いていないのですが、「対談」本当に感謝します。自分は本当に本が好きなので有り難いです。少しでも栗原様の事を勉強出来たらと考えています。しゅんさんの生活を想像すると、素晴らしきセンター長の元、本来の生活を取り戻し、色々な者達から必要とされ、手を差し伸べる、大変充実した毎日なのはと想像しては、心からいいなと憧れてしまいます。

しゅんさんの言う通り、今現在私は安全地帯での生活、少なくとも現在の最低限のルールを守り、出所に向け準備します。しゅんさん頑張って下さい。手本にしています。心からの感謝の気持ちを込めて、失礼いたします。

(東京都 S・Y)

手紙で教えられる心の持ち方を日々念じている

お手紙有難うございます。今回はステップ1についてや、薬中の我々が何処にその問題(=依存症)に対処すべきかが念入りに解説され、微に入り細に入り方針や心のもち方等、現在をどうして生きて行くか等、依存症に関する日々の生活に関して事細かく教えられ感謝しております。日を置きながら手紙を読み返し、自問自答しています。これから先の教科書のような手紙に感動しております。対談「倒れても人はやり直せる」も有難うございました。手紙に書いてありましたような(謙虚で真摯な回復)生活をどこまで理解し実践するのか、自信はありませんが、日々この手紙の内容に教えられる心の持ち方をと念じながら生活して行くつもりであります。(中略)なお最近薬から何年も離れているので、その事についてはジョブに入れてもらえるという事が頭にあるので、一切頭からは消し去っております。時たま夢を見てハッと、やはり自分は薬中なんだなと思出すぐらいですが…。ともあれ新聞の中でセンター長の言葉などを読みながら自分の今後が如何にあるべきかを空想しながら毎日を送っております。

(山梨県 J・R)

受刑者の皆さんからの手紙は守秘義務と情報管理に注意を払い、長く栗原センター長が返事の手紙を書いてきました。今もセンター長がすべての手紙に目を通していますが、最近では超多忙なセンター長に代わって信頼のおける、比較的回復の進んだ仲間(スタッフ)が担当しています。今はしゅんさんがその任にありますが、今回の手紙には彼への深い信頼が綴られています。

任されているので作業にも張り合いがある

潮騒通信、老眼鏡、手紙が届きました。無理な頼み事をした老眼鏡は、まだ手元には届いていませんが、大事に使わせて貰います、ありがとうございました。手紙には、毎日が多忙と書かれておりますが、どうかお身体には十分お気を付けて施設運営の方をお願いします。(代筆の)しゅんさんにおかれましては、作業隊の方で忙しいにもかかわらず手紙を頂きありがたく思っております。最近、通信に載っているメンバーの顔が生き生きしている様な気がします。農業隊、作業隊、おらげのかまどメンバー。やっぱり自分自身の活動の場があるという事がだいじなのかなあーと思ったりもしています。私も今の工場では、私一人が任されている仕事なので作業をしていても張り合いがある感じがします。共に頑張らなくては、とも思っただけで作業に取り組んでいます。そこへ老眼鏡が届き、今後の作業にも役立つ、スピードアップにもつながります。本当にありがとうございました。

でも、通信の一部に書いてあった様に、6割7割の頑張りで生活して行ってみます。100%だと、どこかで疲れが出て来て自爆の恐れが心配ですから…。 (山梨県 H・S)

潮騒の就労支援で私の中のダルク観が変化した

お手紙と潮騒通信、対談の冊子を送っていただき、ありがとうございます。感謝です。心の底から励まされ癒され、考えさせられるので、読むことが楽しくてなりません。正直に言って、しゅんさんのイメージが少し変わりました。作業隊の班長だと分かっていたのですが、潮騒通信にメンバーと共に写ったしゅんさんは、大きく感じ、優しさにあふれているようで、信頼の輪の中で皆が伸び伸びと作業している様が見て取れます。手紙のイメージは若い感じで、何故か微妙に違うと思いました。就労支援で色々な仕事に挑戦されている仲間の皆さんには脱帽であり、私の中のダルクが変化しています。前へ一歩進むために、試行錯誤の繰り返し。ボランティアであれ、対価のある労働であれ、働くことが回復への道しるべとなるべく、今日一日を大切にしていくなさるのだと思います。それにしても潮騒 JTC の活動範囲の広さにびっくりです。私にも出来る事があれば、参加して、協力したいと思っています。

色々な方の御支援や助言をいただきながら、現在進行しておりますが、まだまだ足りていない事が目につきます。第一に、自分に対して甘く、他人に対して厳しすぎる事。第二に、真剣みが無く、格好ばかりで中身が無い。他にもたくさんありますが、正直で素直な自分がどこにもいない事が、淋しいです。私には夢が残っていると思います。まだまだ自分へのサプライズがあると考えています。 (宮崎県 H・H)

他よりけんかが多いので気を引き締めて生活します

先頃、大変に大きな地震が関東方面において2週連続して起こりましたが、潮騒は大丈夫だったですか? 各地の異常気象と関係があるか分かりませんが、火山の噴火や高温等いろいろとおかしな状況が続いているだけに不気味さを感じさせます。潮騒も高齢者が多いと聞いておりますので栗原センター長はじめスタッフの方々のご苦労も多いと思います。当所も夏季処遇となり半袖半ズボンの着用が認められ、少しは暑さを凌げます。もともと暑い地域ですので、これからが大変です。当所では他と比べ、けんかが多いように思います。毎日のように警備隊が走り回っています。他では考えられませんよ。先日も運動中に他の工場の人たち同士のけんかがあり、どうやら事件送致となったようです。これから真夏に向け、さらにヒートアップして気が短くなったりする人が増えてきそうです。私も巻き込まれないようにきちんと生活しなくては、と気を引き締めています。先日のソフトボール大会ですが、惜敗でした。でも仲間同士の絆は深まったように思います。次回の行事にも参加して同囚との絆を深めたいと思います。

(※編集担当の判断で地域、イニシャルは伏せます)

しおさい俳壇

6月のお題

6月の花

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.18

センター長 栗原豊

前回記したように、今回から過去の下獄生活を投影した作品を取り上げて、受刑者の心情を再構成してみようと思う。有難い事に、私が刑務所から姪に送った手紙類が手元にある。今となっては気恥ずかしい体験談ばかりだが、衰え始めた思考回路に刺激を与えてくれる格好の材料と言えそうだ。あれから10数年になるが、今読み返しても当時の光景がリアルに思い出される。私の場合は、今も獄中にいる現役の受刑者と手紙のやり取りをしているので、社会復帰してからも彼らの深刻な状況が自分の事として身体に染みついている。この経験は生涯消えることがないだろうし、消してはならない「負の遺産」だとも考えている。

それはともかく 2012年1月13日発信の手紙には、次の作品がある。私としては珍しい短歌を詠んだ作品だ。“罰房にて”の注釈がある。

目印の 壁のシミへと 陽(ひ)の届き やがて告げくる 昼食の時を
長き夜の 寂しさつもの 独り居の 夢に出逢いし 女(ひと)を追いぬる

当時、私は前年の11月に些細な事で懲罰(2度目だった)を受け、3等級から4等級に落とされた。この等級は受刑者をランク付けするシステムで、年月を経て無事故・無違反ならば自動的に4等級から2級に昇進する(一番最初の等級は5類と呼ばれる最低級)。1等級はかなり狭き門で数は少ない。逆に「懲罰」を受けると降格し、作業報奨金や面会・手紙の発信回数、入浴順番など受刑生活の様々な面で制約を受ける。誤解を恐れずに言うなら“楽しみ”や“エサ”により、規則で支えられたヒエラルキー(位階制)を維持しようとする官側の狙いが伺える。昔から変わらない人間の弱さをくすぐるシステムで、規範意識の低い受刑者には効果抜群と言うべきだろう。

私は手紙に「此处での生活は守らなければならない事や細かな規則があり、常に規則に引っかかるグレーゾーンの中で生活していると言っても過言ではないのです」と記している。(次号につづく)

船頭の

小唄聞きつつ

花あやめ

みく

特選句

潮来の前川から対岸の十二橋へはあやめ舟の娘船頭さんが櫓を漕ぐのが昔の渡しであった。その船頭さんの小唄を聞きながらあやめの花を賞でるのも旅情が深まる。そもそも昔の潮来はサツパ舟で州の田や家を行き来していたのが今の観光にもなった。花村菊江の潮来花嫁さんが懐かしい句です。

花あやめ

孫も十五の

べっぴんに

いしだ

特選句

大方の花は女性を想像させる、あやめの花は少し大人の女性を想うし、女の子も十五歳になり着る物よっては胸の膨らみも見え少しの艶冶もまとう。祖母として孫の成長を思う微笑ましく実感の句です。

秀逸句

今月の秀逸句

しば

江戸の世の童遊びや菖蒲打

江戸時代に菖蒲で縄を作り地面を叩き音の大きさを競う子供の遊びで、今は地方に名残りが残るかも。また菖蒲は武士の勝負に因みに男の子の無事の成長を祈り菖蒲湯、菖蒲刀、菖蒲葺くなどがある。

さゆり

濡れそぼつあやめの潮来帰るかな

原句に潮来を入れて景の見える詠にしました。花も山野も晴天の景と雨に濡れた景がありますが、あやめの花などは雨に濡れたのも少し曇り日に見るのも艶冶を込めて美しい。また山国の信濃などで雨後の晴間の山は格別で心も晴々としませす。

すみれ

水面にも風にもゆるるあやめかな

あやめの花や菖蒲は湿地の花だが田の様に見える植物ではありません、しかし水に映る花は美しいので近くに池などを配して観光にしています。その水に映るあやめもあやめ田の花も風にゆれて美しい句です。

あお

紫陽花や花言葉はと問うてみむ

紫陽花は七変化、刺繍花などとも言われ花言葉も多い、良い方は、元氣、辛抱強い、結び付きで悪い方は、移り気、冷淡、無常など。昔に、シーボルトが日本で愛した楠本滝が辛抱強い女性であったので花言葉になった謂われもあります。面白い句です。

おおも

前川に浮ぶぼんぼり花あやめ

原句は少し変えましたがこれで景の見える詠になります。潮来の前川沿いにはあやめ田があり六月の今が花の盛りで人も多いし夜はぼんぼりに灯が入り趣があります。昔に、水戸光圀公が「潮来出島のまこもの中にあやめ咲くとはしをらしや」と詠まれてから有名になったとも。あやめの花はその名も花も古風な女性を想わせて床しい。

コバ

編み笠の乙女棹さす水芭蕉

水芭蕉は大きな葉と純白の花が印象的で尾瀬が名高い、六月頃水に映る姿は乙女に相応しく思えます。編み笠の娘船頭さんも余り見かけませんが、潮来ではあやめ祭りに時々舟を漕ぐ、私に「あやめ売り声も面輪も笠の中」があり懐かしい句でもあります。

ゆたか

鹿島宮白鵬来る青葉風

白鵬はモンゴル出身の名横綱でその名も高い、その横綱が鹿島神宮に詣でるのも目出たい、杜の青葉風も明るく強く祝福の詠である。また神宮は古事記の国譲りの使いの建御雷神を祀り香取神宮、息栖神社と共に関東三社でもある。

佳作

ひろ

ドローンにて空から見たきあやめ園

おの

田の畦に昔のあやめそそと咲く

ぎん

咲きそろふあやめの花や綺麗だね

いるか

あやめ咲く潮来の水も美しき

ちーな

そよ風にあやめの咲ける川面かな

なな

花あやめ遠くに見るも美しき

みのる

浦空の隙間の日差し花あやめ

れいこ

雨の中しっとり咲けるあやめかな

しま

濡れそぼつあやめの中や潮来舟

かーと

荒梅雨の中にも咲けるあやめかな

あお

はまなすや今も遠けき里思ふ

あべ

里人に守り継がれしあやめ咲く

タカコ

あやめ咲く風の潮来の縄手道

おおも

忘れぬ不知火の花海の暮

おおも

あやめまた運命の中に咲きしかな

ゆたか

潮来野の宵の内なる花菖蒲

「七転八倒の半生を振り返って」

早いもので潮騒ジョブトレーニングセンターに入寮して8カ月が過ぎた。これだけの月日を矯正施設(刑務所等)以外で過ごしたことはないし、こんなに長く? 薬物やアルコールなしのクリーン(素面)生活を過ごしたこともない。実は私も潮騒ジョブでは出戻り組の一人である。しかし、潮騒での2度目の生活で自分の中で確実に何かが変わった。いくらクリーン期間が続いていたとしても、以前ならクスリは使わなくても酒だけはのんでいたはずだ。アルコールだからいくら飲酒しても合法的なわけだし、自己責任なんだから問題はないだろうと開き直り、浴びるほど酒をのんでいたろう。

その私が、今は飲酒もクスリもやりたいとは思わないのだ。私にとっては奇跡に近い出来事と言える。これこそ、ダルクや潮騒の仲間たちが口にする“ハイパーパワー”の力なんだろうか。下手な決めつけはともかく、私は今、潮騒ジョブにおいて「心の平安」ともいべき不思議な充足感を得ている。潮騒でのふだんの生活の中で、まるで子供のようなイノセンス(無垢)な気分を保っている。長期にわたる依存症の後遺症によって心身のダメージは相当に厳しい状況にあるが、むしろそうしたハンディキャップとは裏腹に、今は生きることに対してとても前向きなエネルギーが蓄えられている。一体、これは何なのだろう…。

いつしか私はそのことの意味を自分の言葉でとらえ直してみたいと考えるようになった。もの書きでもない入寮者が何を大それたことを、という批判があるかもしれないが、無性に自分の半生を書き記したくなった。そんな折、施設側から「ちはる、我が回復記に書かないか」という提案をもらった。ありがたいと思った。せつかくのチャンスを生かさないと手はない。自らの棚卸を含めて、同じように依存症で苦しんでいる未知の仲間メッセージが伝えられたらと思い、一念発起して本欄で、これまで薬物やアルコールに支配された私の破滅的な半生を、正直かつ冷静に振り返りたいと思う。私にとって苦い過去を総括することは、今をどう生きるかにつながっている。果たしてうまくいくかどうかは分からない。少し長い連載の形になるかもしれないが、どうか辛抱願いたい。(次号に続く)

6月のバースデー

とん



私はいつまでここに
いるのだろうか。

ハル



健康でいたいです。

ジュン



虫が食べられる
野菜を作りたい。

けい



健康に気をつける。

とむ



健康な心

マコ



努力します。

ヒカル



秋頃には出たい。

オカ



今日一日。

6月の行事予定

- 6・7日 JA潮騒鹿嶋農産物直売所メロン祭り
- 12日 潮騒俳句会
- 13日 第11回北海道ダルクフォーラム
百寿亭慰問
- 14日 秋元病院メッセージ
- 19日 潮来あやめ祭り見学
- 20日 秋元病院メッセージ
- 25日 映画会
- 28日 潮騒家族会

7月の行事予定

- 9日 潮騒俳句会
- 12日 秋元病院メッセージ
- 18日 秋元病院メッセージ
- 19日 茨城ダルク 23周年フォーラム
- 26日 潮騒家族会
- 30日 映画会

編集後記

私事ですが、大学4年の長女が母校の中学校で教育実習を経験しました。期間中は毎晩帰宅するのが午後10時過ぎでした。聞けば、ほとんどの先生方が居残ってサービス残業をしているのだそうです。そんな激務でも、みんな翌朝7時半には出勤しているとのこと。どう考えても、人間はそんな長時間、集中力を維持できるとは思えません。長い緊張感にさらされれば、いろんなミスも起こります。学校の先生たちの、この国の未来を担う子供たちを育てるという過剰な責任感は分かりますが、過労死一歩寸前の状況下で本当に「いい教育」などできるのだろうか、と頭を抱えました。翻って潮騒JTCは社会の歯車から外れたアウトローの居場所です。依存症という厄介な病気を抱えた人たちですから、できるだけ回復に向けては緊張感の少ない、ゆったりした時間の流れが必要です。でも、これにも落とし穴があります。こうした「心地よさ」に甘えて自分の病気に向かい合うことをせずに、無為徒食に施設生活に身を委ね、居直った生活にどっぷり浸かっていると、生きることへの謙虚な姿勢を失っていつの間にか怠惰やずる賢さが施設内に蔓延するようになります。このような“悪魔のささやき”に付け入る隙を与えないためにも、地道に日々のプログラムに取り組み、回復への希望を見失わないことが大事なのだと思います。(市)

献金・献品を頂いた方 (6月15日現在)

- ・ 中村一樹様
- ・ イルポートコボリ様
- ・ 横山三次様
- ・ 高橋ふく子様
- ・ 中村啓一様

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

今月も献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、
回復のためのプログラムを実践することが
できておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しく願い申し上げます。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年6月号

Contents

- P② 悩みながらも仲間を信じて前に進みます
- P③ カスミ〔わたしの企画〕応援します! に選ばれる
- P④ 今年も仲間たちが筑波山登山に挑戦!
- P⑦ 平成27年度NPO総会開く
久々のプログラムながら何とか形に
就労支援プログラムの冊子を発行
- P⑧ ジャガイモ収穫作業「私たちの農園」
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「6月の花」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ちはるの回復記」

■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



